

## <職員の自己評価による学校評価>

◆横浜市教育委員会で定めた評価指標にもとづき、本校の職員が学校運営について評価しました。その結果をもとに、話し合い、改善点についてまとめました。

項目	評定	取組目標	ふりかえり 改善案
学力	B	<p>◎人権教育を基盤とした全教科の中で言語活動の充実を図り、コミュニケーション力の育成を図ります。</p> <p>○少人数指導やTT、個別指導などの指導形態を工夫して、個に応じた指導の充実を図ります。</p> <p>○朝の時間に「学習チャレンジタイム」を実施して、基礎基本の確実な定着を図ります。</p> <p>○宿題等を出して家庭学習の定着をめざします。</p>	<p>・学校としての取組は行っているが、児童同士の会話や行動を見ると、今後も引き続きの取組が必要だと思う。</p> <p>・指導体制は充実していると思う。基礎基本の確実な定着については課題が残ると思われる。</p>
<div style="border: 2px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p>&lt;人権教育の推進&gt; カリキュラムの見直しや、授業研究を通して、教職員一人ひとりの人権教育に対する意識を高め、教育活動を進めてきた。落ち着いた環境で子どもたちが学習を進めることができている。学力の向上については継続した取組が必要。</p> </div>			
豊かな心	A	<p>◎自尊感情を育む指導を充実し、互いを認め合う心を育てます。</p> <p>○人権教育全体計画に基づく教育活動の改善を行い、授業実践「人権教育を語り合う会」を公開します。</p> <p>○中村特別支援学校との交流活動をさらにすすめていきます。</p> <p>○外国の文化や習慣を体験的に理解できるようにします。</p>	<p>・特別支援学校との交流は学校全体で重点的に行っており、児童同士の関わりも深まっていると思う。また、外国の文化や習慣を体験する国際の時間やオリニ会、国際理解集会などもあるが、どうしてもかかわりのある児童の参加になることが多いため、全校児童が意識できるような取組を考える必要があるのではないかと思う。</p>
<div style="border: 2px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p>&lt;オリニ会、国際の時間の充実&gt; 区役所やラウンジの協力を得て、講師を招き、様々な国の文化をその国の人に教えてもらったり、体験させてもらったりする活動ができた。来年度はこれらを統合し、世界の時間としてより一つ一つの内容を充実させていく。</p> </div>			
健やかな体	B	<p>◎規則的な生活習慣と健康への意識を高め、進んで健康や体力の向上に励む力を育てます。</p> <p>○基礎的な運動技能を身に付けるために、子どもが自分でめあてをもちながら体力づくりに励むようにします。</p> <p>○各教科領域の関連を図り、食育などを充実させて生命の尊さを指導します。</p>	<p>・生活習慣については学校保健委員会等においても取り上げており、児童も規則正しい生活を送ることの大切さについては理解はしているものの、実生活において実践できているかどうかについては疑問が残る。保護者を巻き込んでいく工夫が必要と思う。</p> <p>・栄養士が定期的に給食を子どもたちと一緒に食べたり、食育だよりを作成してくれたりしているので、食への関心は高い。</p>
<div style="border: 2px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p>&lt;食育の取り組み&gt; 栄養職員や養護教諭と学級担任が協力して保健の学習を進めることができ、子どもたちの健康への意識を高めることができた。</p> </div>			

教育課程	A	<p>◎地域の特長や材を生かして教育課程を編成し、「分かる、楽しい」授業を実施します。 ○子どもの実態を的確に把握し、教材研究を充実させることによって「分かる授業」「楽しい授業」を実践することで、子どもの学ぶ意欲を引き出します。 ○小中一貫カリキュラムの編成と、評価標準の明確化・共有化を図ります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援学校との交流をはじめ、学区内に様々な地域の施設があり、総合的な学習の時間などで、学ぶことができるのは素晴らしいと思う。</li> <li>・子どもの学ぶ意欲を引き出すためにも、さらに子どもの実態を的確に把握していく必要があると思う。</li> </ul>
		<p>＜教育課程の編成＞ 教育課程を人権教育の視点で見直した。また、地域の特徴を生かした教育課程を編成することができ、子どもたちが町で人や物から学ぶ機会を増やすことができた。</p>	
児童指導	A	<p>◎児童、保護者と信頼関係を築き、協力して支援を行うとともに、児童の規範意識を高める指導を行います。 ○子ども一人ひとりの居場所づくりに努め、安心して学習に取り組めるようにします。 ○教職員が子どもの思いをしっかり受け止め、寄り添いながら、子どもが自ら考え、よりよい行動がとれるようにします。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人の児童に対して複数の職員が目が行き届いており、児童にとって学校が安心して学習できる場所になっていると思う。</li> <li>・一人ひとりの職員が、学級に関係なく児童指導に努めている。</li> <li>・子ども一人ひとりの居場所づくりを意識し、教職員みんなで全校児童に声をかけていこうとする雰囲気がある。</li> </ul>
		<p>＜丁寧な児童指導＞ 児童支援専任が配置されて4年目となり、これまでの児童指導の成果を生かし、より未然予防に努めることができるようになってきている。</p>	
特別支援教育	A	<p>◎児童理解に努め、共通理解を図って、一人ひとりに応じた指導を組織的に行います。 ○支援を必要とする子の支援計画を立て、チームとして関わっていきます。必要に応じて関係機関とも連携しながら、子どもが安心して学校生活を送れるようにします。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習面で支援の必要な児童と、外国とのつながりの関係で支援の必要な児童など、さまざまな面で支援の必要な児童がたくさんいるため、現在行っている以上に支援の必要な児童がいるように感じる。</li> <li>・ていねいなサポートができていていると感じる。今後はその子に力を付けていく長期的な見通しのもと支援が進められると良い。</li> </ul>
		<p>＜一人ひとりに応じた指導＞ 職員間での情報共有がしっかりとできており、全教職員で連携して支援ができている。子どもたち一人ひとりにどう力をつけていくかは今後の課題。</p>	

地域連携	A	<p>◎保護者や地域との連携を大切にして、学校・保護者・地域が協力して児童を見守り、育てる活動を推進します。</p> <p>○学校だよりやホームページ、懇談会などで学校の様子を積極的に発信し、学校行事などへの参加を促します。</p> <p>○教職員が積極的に PTA や地域行事に参加し、保護者、地域との関わりを深めていきます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域行事に参加し、顔の見える関係のなかでみんなで子どもを育てているという雰囲気になっていると思う。</li> <li>・秋の授業参観・懇談会がなくなってしまったことで、秋に親子親睦会を行わない学年は、保護者との連携がとりにくくなってしまった。</li> </ul>
<p style="text-align: center;">＜地域行事や PTA 行事、学校行事での交流＞</p> <p>今年度新たに行った行事もあり、子ども、保護者、教職員、地域の方がかかわり合う機会をもつことができた。行事を通して互いに顔見知りになり、良い関係の中で子どもたちを見守り、育てる環境ができています。</p>			
人材育成・組織運営	B	<p>◎キャリアステージを考慮しながら個の力を伸ばすとともに、互いを尊重し合いチーム力の向上に努めます。</p> <p>◎重点研究などの授業研究を通して授業力の向上を図ります。学級経営、教科指導、児童指導等について定期的に研修会を実施します。</p> <p>◎人権教育・特別支援教育等の研修会を実施し、教職員が自己の人権意識を振り返る取組を日常的に進めます。</p> <p>◎教務会を実施して、情報交換を充実させて共通理解を図るとともに、ミドルリーダーの育成をめざします。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究・研修の機会は確保されているが、日々の忙しさの中で、日常的に成果を活かすことができているのか疑問。</li> <li>・中村小の児童の実態に合わせて指導を行い、研修や研究会でお互いに指導力や人権意識を高めようとしていると思う。</li> <li>・研修の成果についてどれだけの効果があったのか検証が必要だと思う。</li> <li>・多忙化につながらないよう、見通しをもった計画が必要。</li> </ul>
<p style="text-align: center;">＜組織運営の改善＞</p> <p>学級数減による職員数減に伴い、組織を改善して 2 年目となった。人権教育を基盤に、インクルーシブ教育、多文化共生教育、授業の充実の 3 つの柱で教職員がうまく分担、協力、連携ができるようになってきている。</p>			
進路指導	B	<p>○子どもが将来に夢や希望をもつことができるよう、自分や地域をもっと好きになる取組を進めます。</p> <p>○将来の生き方や夢などについて、発達段階に応じた取組の中で、自らを見つめ課題を選択したり解決したりする力を育てます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部関係機関等協力のもと、様々な職業の人たちの生き方に触れる機会が設定されていると思う</li> <li>・地域の仕事等を見学する際等に、将来の職業選択についての意識を持って臨めると良いと思う。</li> <li>・学習と関連させて、地域への興味、関心が高められていると思う。</li> </ul>
<p style="text-align: center;">＜キャリア教育の推進＞</p> <p>地域の人から学ぶなかで仕事を知るだけでなく、仕事への思いや、そこで働く人たちの生き方にふれることができた。それらをさらに深めていくことが出来ると良い。</p>			

保健管理	B	<p>○学校保健計画に基づき、子ども一人ひとりが心身ともに健康で過ごせるように、保健目標の実現に向けた取組を充実します。</p> <p>○子どもの心身の健康について、「保健だより」や学校保健委員会を通して保護者・家庭・学校医等に情報を発信し、連携を図ります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・掲示物がとてもわかりやすく、児童が興味をもちやすいと思う。</li> <li>・学校保健委員会テーマの「早寝早起き朝ごはん」が定着したかどうかをはかるのは難しい。</li> </ul>
<p>＜学校保健委員会＞</p> <p>毎月の生活目標のなかで、保健目標を重点に取り組んだ学級も多かった、手洗いうがいや、栄養バランスのとれた食事など、子どもたちの意識を高めることができた。</p>			
安全管理	A	<p>○危機管理（防犯・防災）マニュアルに基づき、事件事故や災害発生時に適切で迅速な対応ができるよう、実情に応じた研修を行います。</p> <p>○学援隊やPTAの見守り活動を継続し子どもの登下校の安全を図ります</p> <p>○中村学校消防計画に基づき、中村特別支援学校と連携した訓練を2回実施します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度も中村特別支援学校と合同での防犯研修を行うことが出来た。課題を明確にしマニュアルの改訂について議論できた。</li> <li>・学援隊などの見守り活動が充実している。</li> </ul>
教職員の研究・研修	B	<p>○全市の学校に呼びかけて「人権教育を語り合う会」を実施します。</p>	<p>○特別支援学校と合同の訓練</p> <p>両校のマニュアルを両校の担当で綿密に打ち合わせ内容を整理することができた。合同防犯訓練の成果を生かし、防犯マニュアルを改善した。</p> <p>○市の検証が必要だと思う。</p>
<p>＜授業力向上に向けて＞</p> <p>人権教育を基盤とした教育活動を推進するために、研究や研修を活発に行うことができた。その成果を人権教育を語り合う会で発信することができた。</p>			
地域・家庭との連携	B	<p>○毎月の学校だより・人権だより、ホームページの更新などあらゆる機会を通して、学校の教育活動についての情報を、保護者・地域に発信します。</p> <p>○授業参観・懇談会へ保護者が参加しやすいように、懇談会のテーマを決めたり授業内容が分かるお知らせを工夫したりします。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域に対して情報発信できていると思う。受信する側の保護者の受け止め方、協力が必要だと思う。</li> <li>・参観・懇談会への参加の呼びかけだけでなく、授業形態も工夫して行っていると思う。</li> <li>・各学年の学年だよりをまとめて学校だよりとしたことで、保護者への連絡に差異が生じることなく、明確に伝わるようになった。</li> </ul>
<p>＜保護者同士がつながりあえる場づくり＞</p> <p>授業参観や懇談会の参加者は昨年度に比べ増えてきている。しかし、適切な回数や実施時期については今後も検討を重ねていくことが必要。</p>			

教育環境整備	A	<p>○子どもが安全・安心して学校生活を送ることができるように、施設・設備を定期的に点検し、改善を図ります。</p> <p>○きれいな学校、学習に適した環境づくりをめざし、清掃の徹底、花壇の整備、各教室の学びの空間づくりを行います。</p> <p>○資源ゴミの分別やリサイクル等、横浜市環境基準を遵守する取組を行います。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・技術員さんを中心に安全で、清潔な学校が保たれていると思う。</li> <li>・長期休暇中に職員作業として、学校全体のワックスをかけたり、清掃作業を行っているため、きれいな環境が保たれていると思う。</li> <li>・例年課題となっていた花壇の整備についても年間を通して計画的に進められるようになってきた。</li> </ul>
<p>&lt;教室環境の整備&gt;        今後の学級数増に向けて計画的な教室配置計画や、それに伴う教室の移動を行っている。どの教室もきれいな状態を保つことができている。</p>			
その他	A	<p>○在籍する外国籍及び外国につながる子どもが、アイデンティティーを保障され、安心して生活ができるよう多文化共生教育の充実を図ります。</p> <p>○国際教室で個に応じた支援を行い、在籍する外国籍及び外国につながる子どもの学力をつけるようにします。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際の時間や、国際理解教室だけでなく、普段の教室での指導からきちんと意識されている。</li> <li>・国際の時間やオリニ会などの時間が設定されており、児童にとっては外国の文化に触れる機会が多くあると思う。しかし、これらは教育課程外の活動であるため、今後の取組方に課題もあると思う。</li> </ul>
<p>&lt;「世界の時間」の取組&gt;        国際の時間とオリニ会を一体化し、「世界の時間」として今年度進めてきた地域の関係機関との連携を充実させ講師を招き、その国の文化をその国の人を紹介してもらう活動を進めていく。各教科・領域の中にもより積極的に多文化共生を考えた学習を行っていく。</p>			

## <学力向上アクションプランについて>

◆横浜市教育委員会で定めた評価指標の他に、本校独自の学力向上アクションプランについても全職員で自己評価をしました。

基礎基本の確実な定着	B
<p>基礎基本の確実な定着</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 研究・研修の充実           <ul style="list-style-type: none"> <li>・年間1回以上の「研究授業」を実施</li> </ul> </li> <li>○ 基礎的基本的な知識・技能の習得           <ul style="list-style-type: none"> <li>・国語科における音読カードを活用した指導、また、チャレンジタイムを利用した漢字学習の指導</li> <li>・四則計算の確実な習得に向けた補充プリントの作成</li> <li>・家庭での自主学習を進めるための各学年に応じた工夫</li> <li>・基礎基本の定着を目的とした朝の時間の「学習チャレンジタイム」での教師の積極的な指導の徹底</li> </ul> </li> <li>○ 学習の基盤となる学習規律の形成           <ul style="list-style-type: none"> <li>・全児童が挨拶、返事、正しい姿勢、きれいな字を意識することの徹底</li> <li>・話の聞き方、話し方のルール of 徹底</li> </ul> </li> <li>○ 学年研究会の充実           <ul style="list-style-type: none"> <li>・低、中、高のブロック研を行い、学年学級を越えた情報交換の場の設定</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意欲はあるが学力が伸びないところはずっと課題になっている。学校の実態に即したこれまでの成果と現状のとらえ直しが必要だと思う。</li> <li>・チャレンジタイムで漢字や計算を意図的に行っているため、少しずつ定着が図られていると思う。</li> <li>・家庭での自主学習も、各学年工夫しながら取り組みを続けていると思う。</li> <li>・学習の基盤となる学習規律も低学年からの積み重ねがあり、よいと思う。</li> <li>・鉛筆の持ち方キャップが各教室で一人ひとりが使えてとてもよいと思う。</li> <li>・1年生から算数の時間にサポートが入るようになり、全学年で算数の指導が充実してきている。</li> </ul>

個に応じた指導	A
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 補充・基礎・発展的指導内容 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「横浜版学習指導要領」の「補充的・基礎的・発展的指導内容」の活用による学力の向上</li> </ul> </li> <li>○ 特別支援教育の充実 <ul style="list-style-type: none"> <li>・支援を必要とする児童への指導・支援の研修を年2回以上実施</li> <li>・授業の中で、学級全員の子どもが輝き、認められる機会をつくる意識</li> <li>・ATやTTの効果的活用</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個に応じた支援体制がさらに効果的に活用される方法を検討した方がよいと思われる。</li> <li>・現在行っている児童のほかに、まだ、学習面、生活面で個に応じた支援が必要な児童がいると思う。しかし、児童について学年やブロック、児童支援専任と相談しやすい環境にあるのがよいと思う。</li> <li>・サポートしてくれる大人がいればなんとかなる子を育てるのではなく、持っている力で学級の一斉授業に取り組むことの出来る力をどのようにつけていくのかという視点が必要。</li> </ul>

伝え合う力の育成	B
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 言語活動の充実 <ul style="list-style-type: none"> <li>・人権教育を基盤とした言語活動を軸に据えた授業の実践と相手意識をもった単元構想</li> <li>・確かな言語能力を身につけるための具体的取組（マイ辞書の活用、読み聞かせなど）</li> </ul> </li> <li>○ 交流活動の充実 <ul style="list-style-type: none"> <li>・聞く、話す力を意識した学習のルールを構築し、話し合い活動を中心とした授業の日常化</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業や、委員会やなかよし班の活動を見ると、児童同士で自分の思いを伝えようとする児童が多いと思う。その反面、相手の話を最後までしっかりと聞いたり、理解しようとする力についてはまだ少し課題が残ると思う。</li> <li>・昨年度作成した系統表がもう少しきちんと活用されると良いと思う。</li> </ul>

研究研修体制の充実	B
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 研究、研修時間の確保 <ul style="list-style-type: none"> <li>・年間5回の重点授業研究会と教育ニーズに合わせた現職研の実施</li> </ul> </li> <li>○ 経験年数の少ない教員の指導力向上 <ul style="list-style-type: none"> <li>・メンターチームの編成及び研修時間の確保（年間9回）</li> <li>・初任から5年までの教員の授業研究の実施</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全員が重点研、語り合う会で授業を行うことは、指導向上につながると思う。</li> <li>・全教科、領域を重点研究に据えている成果として、教育ニーズにピンポイントで迫れている。また、経験年数の少ない教員にとっては、多岐に渡る考え方が自身の研究に生かされている。</li> </ul>

学校と家庭の連携	B
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 家庭学習の習慣化 <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭との連携における低学年20分、中学年40分、高学年60分の家庭学習の習慣化</li> <li>・自主学習の指導と宿題の計画的な実施</li> </ul> </li> <li>○ 「早寝、早起き、朝ごはん」を中心とした基本的な生活習慣の確立</li> <li>○ 授業参観や行事等の様々な場面で保護者の思いを受け止めることのできる学校評価の充実</li> <li>○ 懇談会のテーマを事前に保護者に伝えることで参加者を増やし、学校理解を深める取組</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高学年になるにつれて、だんだんと規則的な生活習慣と健康への意識が低くなる傾向にあるなか、家庭の協力も得て意識的に取り組んでいると思う。</li> <li>・個人の成果に合わせて柔軟に取り組む時間や内容を変えていって良いと思う。</li> </ul>